



B.LEAGUE



J B A インテグリティ委員会

(概要資料)

インテグリティとは

誠実さ、真摯さ、高潔さ

インテグリティ委員会設立

スポーツ界における不祥事

- ・指導者の問題（体罰行為、各種ハラスメント、etc） **2012年12月 桜ノ宮高校バスケット部事件**
- ・プレイヤーの問題（暴力行為、賭博行為、各種ハラスメント、etc）
- ・組織、役員の問題（協会組織のガバナンス問題、各種ハラスメント、etc）

対 応

- 2013（H25）年 4月 **スポーツ界における暴力行為根絶宣言**（公財）日本体育協会（現日本スポーツ協会） 他
- 2015（H27）年 3月 **グッドコーチに向けた「7つの提言」** 文部科学省によるコーチング推進コンソーシアム
- 2018（H30）年11月 **「子どもの権利とスポーツの原則」**（公財）日本ユニセフ協会
- 2014（H26）年12月 「スポーツ・インテグリティ・ユニット」の設置** JSC（日本スポーツ振興センター）
- 2017（H29）年12月 インテグリティ教育の推進** JOC（日本オリンピック委員会）
インテグリティ＝人間力としてオリンピック指定強化選手を対象にカリキュラム作成

JBAとして

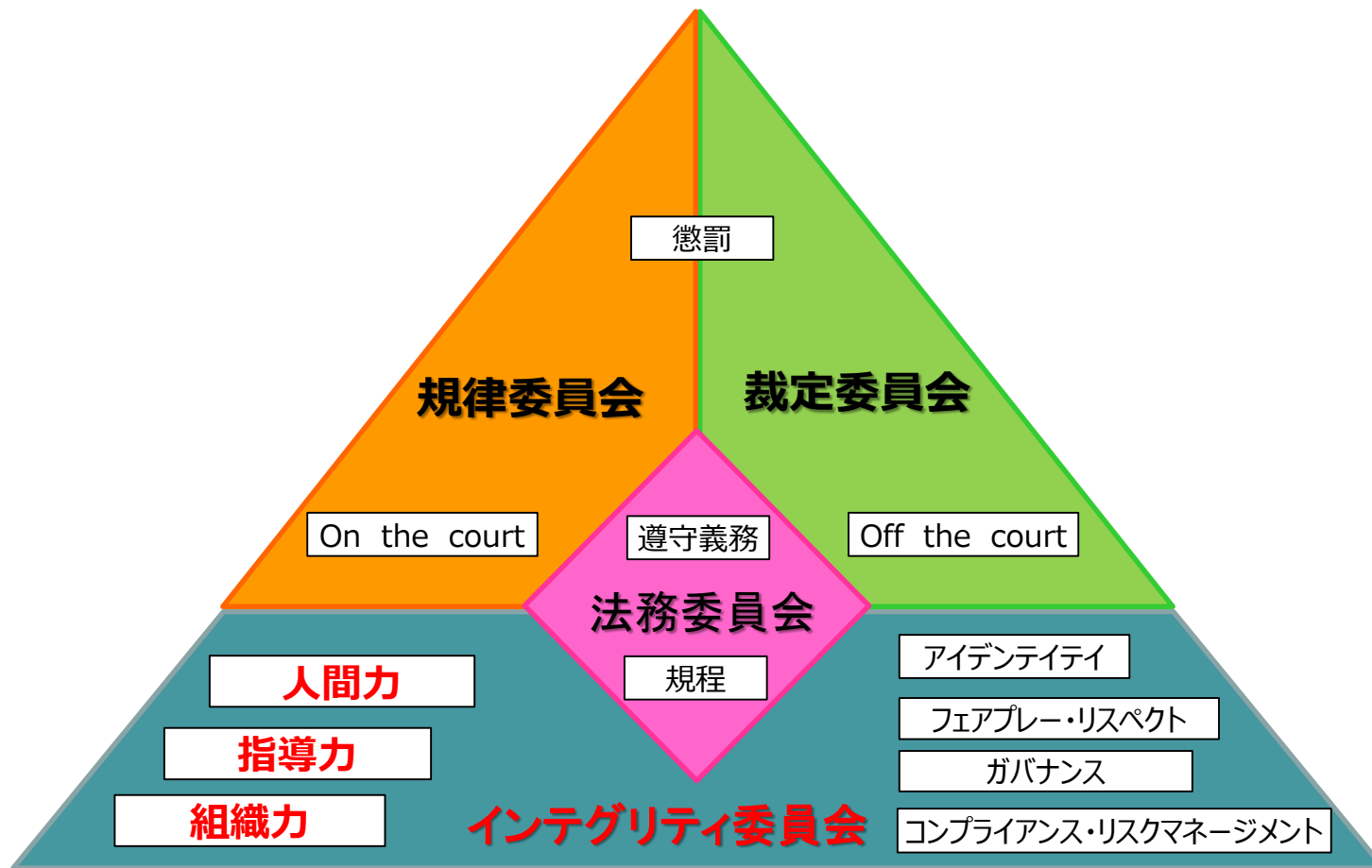
目 的

JBAが掲げる【バスケットで日本を元気に】の理念実現に向け、【**インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）**】に基づき**人間力・指導力・組織力**を高め、バスケットボールの価値を高めるための**指針決定および啓発活動**を目的とする。

方 針

オールバスケット、連携・分担、専門性、年代別・成熟度別

インテグリティ委員会の位置づけ



規律委員会・・・コートで起きた案件に対して対応する

裁定委員会・・・コート外で起きた案件に対して対応する

インテグリティ委員会・・・規律・裁定案件を未然に防ぐための指針決定および啓発活動をおこなう

インテグリティ委員会業務内容および分担

業務内容

業務分担

(1) 人間力を高める

① ひとりの人間としての資質を高める

- ・アイデンティティ教育（常に自分の意思で判断し、行動する**自律した人間の育成**）
Ex 自己実現（PDCA）、オープンマインド、あるべき姿、なりたい姿etc

② 人とのかかわりの中で社会人としての資質を高める

- ・フェアプレー・リスペクトの精神 ・コンプライアンス教育（法令順守）
- ・リスクマネジメント教育（危機管理） ・セカンドキャリア教育 etc

③ 自発的に他者（社会）のために尽くす資質を高める

- ・ボランティアの精神

(2) 指導力を高める

① プレーヤーの個の力を高める指導

- ・アスリートセンタードの精神 ・暴言暴力含めた体罰根絶
Ex アンガーコントロール

② チームプレーヤーとしての力を高める指導

- ・勝利至上主義からの脱却

③ バスケットボールの価値を高める

- ・バスケットに関わる全ての人（プレーヤー・審判・観客等）に対するリスペクト
Ex チームに関係する人（保護者等、観客）への啓発 etc

(3) 組織力を高める

① 組織としてのあり方を高める

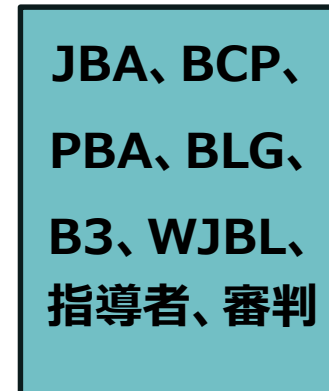
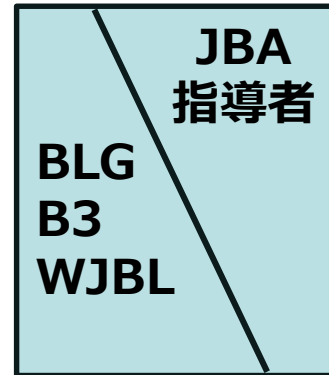
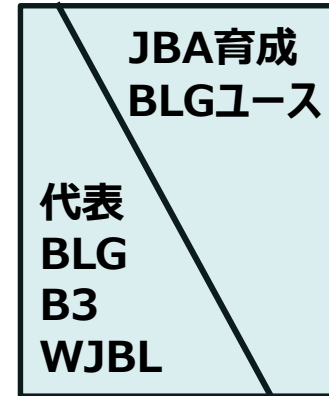
- ・ガバナンス、コンプライアンス（JBA、PBA、TLG等各組織において）
Ex 法人化、目標の明確化、情報公開、責任の所在

② 組織としての適応力を高める

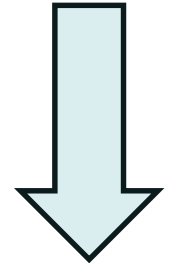
- ・リスクマネジメント
Ex トラブルに対する速やかな対応、不祥事を未然に防ぐ啓発、再発防止策

③ バスケットボールの価値を高める

- ・バスケットボールを通じた社会貢献

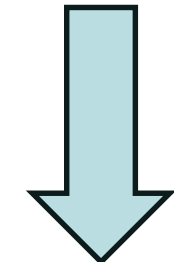


年代・成熟度



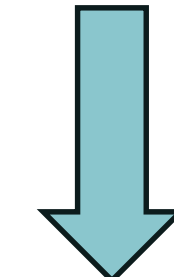
高い

指導力



高い

組織力



高い

インテグリティ委員会の方向性

STEP1 喫緊の課題対応

各団体・セクションで検討し委員会にて集約

JBA最優先課題「暴力暴言根絶」

2012年12月 桜宮高校バスケット部事件

JBA対応

2013年4月 登録指導者に対してアンケートの実施

2013年6月 注意喚起、嚴重注意処分等決定

ところが

体罰事案件数

高体連（体罰認定件数：2014年以降）

2014年（5/12①） 2015年（6/36②） 2016年（6/36②）

2017年（4/41④） 2018年10月末現在（6/24①）

27/149（18%）全競技で一番多い

日本スポーツ協会（相談件数：2014年度以降）

60/315（19%）全競技で一番多い

STEP2 中期的対応

各団体・セクションで

業務内容・業務分担に応じた

課題を検討し

委員会にて集約

STEP3 長期的目標

インテグリティの精神を身に付けた人材の育成

人間力（プレイヤー）→指導力（プレイヤーの育成・強化）→組織力（運営）

JBAとしての喫緊課題「暴力暴言根絶」に向けての対応

①メッセージの発信

**クリーンバスケット、クリーンザゲーム
～暴力暴言根絶～**

- 主題（JBA、トップリーグ・団体共通） 「クリーンバスケット、クリーンザゲーム」
 - クリーンバスケット**・・・バスケットファミリー全員の協力によりバスケットの価値を高める
→**オフコートでのあり方**
 - クリーンザゲーム**・・・試合に関わる選手、コーチ、審判全ての協力で試合の価値を高める→**オンコートでのあり方**
- 副題（各団体で設定） JBAは「暴力暴言根絶」

会場にバナーの貼付、プログラムへの掲載

②試合中における暴力的行為および暴言に対する対応

**選手に対する暴力的行為および暴言は
テクニカルファウル（C）の対象とする**

競技規則およびガイドラインにおいてもテクニカルファウルとすることに問題はない

競技規則に則りテクニカルファウル2個で失格退場

失格退場に対しては、規律案件とはせず、当該試合のみの対応とする。

ミニルール（U12）にはテクニカルによる失格退場が現段階でないため変更予定

**3月開催、Jr All Starおよび全国ミニで先行実施
4月から、全国で実施**

③今後の進め方

テクニカルファウルの定義明確化および暴力的行為・暴言の事例集作成
→JBAとして明確にし、**プレーコーリング・ガイドライン**に掲載後、全国へ展開。

周知方法（暴力的行為および暴言をテクニカルファウルの対象とする）

組織として 2月16日 全国専務理事連絡会議（全国への協力依頼）

※JBAそしてPBAの協力で暴力暴言根絶に取り組んでいきたい。

審判員へ 2月24日 全国審判長会議（審判員への発信および協力依頼）

指導者へ

1. TeamJBAを通して、チーム登録・コーチ登録に対し通知。
2. JBAアンダーカテゴリー部会から都道府県アンダーカテゴリー部会へ通知。

各種問題発生？

JBAとして「暴力暴言根絶」に向けた取り組みは最優先課題のひとつであるため、実施後様々な修正が予想されるが、JBAの姿勢を示すため実施したい。
ただし、審判員がテクニカルファウルと判断し、さらに失格退場とすることは非常に大変な事です。組織としてのバックアップをよろしくお願いします。



B.LEAGUE



B.LEAGUE B3